

経営比較分析表（平成29年度決算）

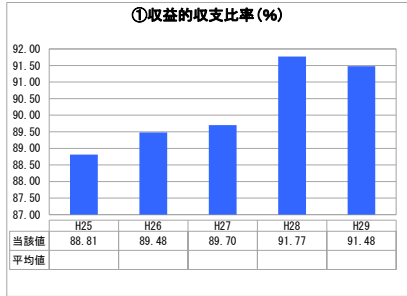
神奈川県 綾瀬市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Bc1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	94.35	80.17	2,060

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
85,063	22.14	3,842.05
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
80,057	10.84	7,385.33

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



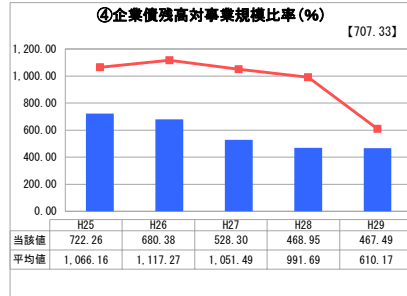
「単年度の収支」



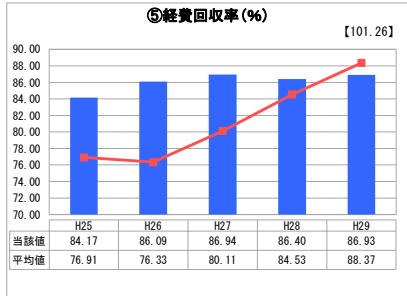
「累積欠損」



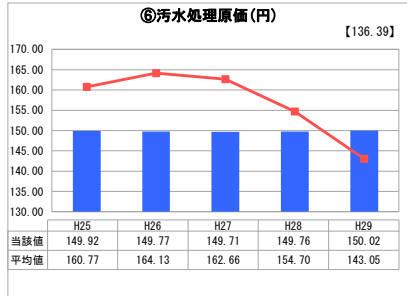
「支払能力」



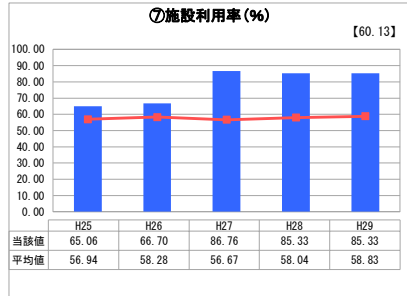
「債務残高」



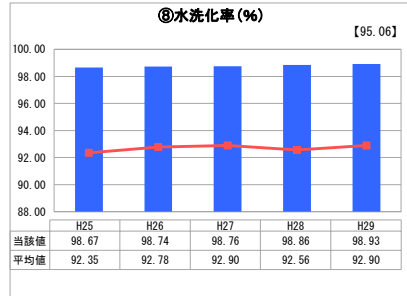
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

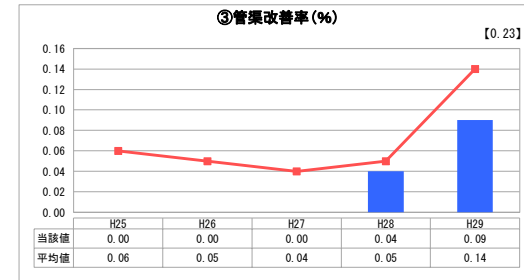
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

単独処理場維持管理の包括的民間委託等による業務効率化を図っておりますが、人口が減少に転じたこと等による使用料収入の伸び悩みにより収益的収支比率、経費回収率は100%に届かず、ほぼ横ばいに留まっています。
下水道使用料収入で必要経費を賄えず、一般会計からの基準外繰入金で補っている状況です。
企業債残高、地方債償還額は平成20年度をピークに減少に転じ、そのため企業債残高対事業規模比率も年々減少しております。

2. 老朽化の状況について

昭和62年の供用開始から31年が経過し、施設の老朽化が進んでいることから単独処理場、管きよととも改築・更新の必要性が年々高くなっております。現在は長寿命化計画を基に施設の改築・更新を推進しております。

全体総括

普及率、水洗化率は100%に近い状況であり、現在の本市の主な下水道事業は施設の維持管理及び改築更新となっております。
近年の経営指標の状況に鑑み、現在下水道使用料の値上げを検討中です。加えて、平成32年度に公営企業会計を導入するため、同会計における経営状況の数値により使用料水準を再度検討いたします。
老朽化対策については、さらなる最適化・精緻化を図るため従来の長寿命化計画に加えストックマネジメント計画の策定を進めております。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。